

## 情報連絡員報告・3月分

## 非製造業の売上高、収益状況、業界の景況のDIが好転

～製造業は2月連続で売上高、業界の景況のDIが好転～

&lt;東京都中央会&gt;

3月の情報連絡員報告によると、悪化を続けていた非製造業の売上高、収益状況、業界の景況のDI（前年同月比）が好転した。製造業は、2月連続で売上高、業界の景況のDIが好転、収益状況は前月と同値であった。

特記事項では組合員数の減少や原油高騰によるコスト増で採算確保に苦しむ中小企業と組合の現状が報告された。都内の中小企業が景気の回復を実感するにはまだ時間がかかりそうだ。製造業65人、非製造業85人、計150人の集計。

## 特記事項欄より

## 「食料品」

- ・年度末に2社が脱退することになり、この10年間に組合員数が3分の2になった。小規模の組合員は後継者問題で廃業することが多い。

## 「繊維・同製品」

- ・昨年からの国内生産回復で、生産量は増加済み。加工賃は低水準のため、収益率は悪く、経営状態は改善されていない。

## 「窯業・土石製品」

- ・原油高の影響でプラグや刃が値上りし、組合販売価格を見直さなければならぬようである。景気がよくなったという実感はない。

## 「鉄鋼・金属」

- ・原材料、副資材関係は高値で推移しているが、非鉄金属（銅合金地金・アルミ地金）の高騰が続いており、価格転嫁もできず、採算確保に苦しんでいる。

## 「一般機器」

- ・同業者の倒産・廃業で業者数が減少したために仕事量は増加してきたが、印刷料金は下がったままなので内容的にはあまり良くなっていない。

## 「電気機器」

- ・昨年に比較すると、堅調。地域や業者間での格差はあるものの、量的にはまずまずか。ただし、設備投資等が持続するか、不透明感がぬぐえず、今後の見通しは立てにくい。

「卸売業」

- ・米国产牛肉の輸入停止と国内BSE発生後の国内産牛肉不足により市場価格が高騰。

「小売業」

- ・最盛期は300名を超えた組合員数が、17年度末では100名を割った。組合組織の求心力の低下を実感する。
- ・年度末に入り、組合員の退会傾向が一段と激しくなった。年数万円の会費も出し渋る状態である。景気の回復は大企業のみらしい。

「サービス業」

- ・年々一般家庭からのクリーニング支出は減少の途をたどり、全世帯の平均支出は13年連続で前年割れをしていて、ピークの平成4年度の半分を割ってし

まった。

「商店街」

- ・若い来街者が多くなり、一人あたりの売上は少なくなっている。個室的なスペースが求められるので、飲食店は店舗の改造をもとめられている。

「建設業」

- ・この一年、合併・廃業による脱退者が多かったが、年度末に来て、後継者問題や事業縮小による脱退が10社にのぼった。

< 要望事項欄より >

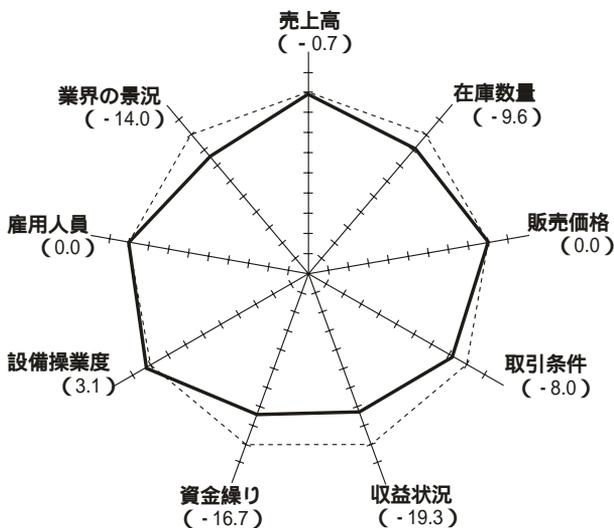
- \* 米国产牛肉の早期の輸入再開を望む。

[ 卸売業 ]

- \* 二輪自動車の駐車場の建設促進。

[ 小売業 ]

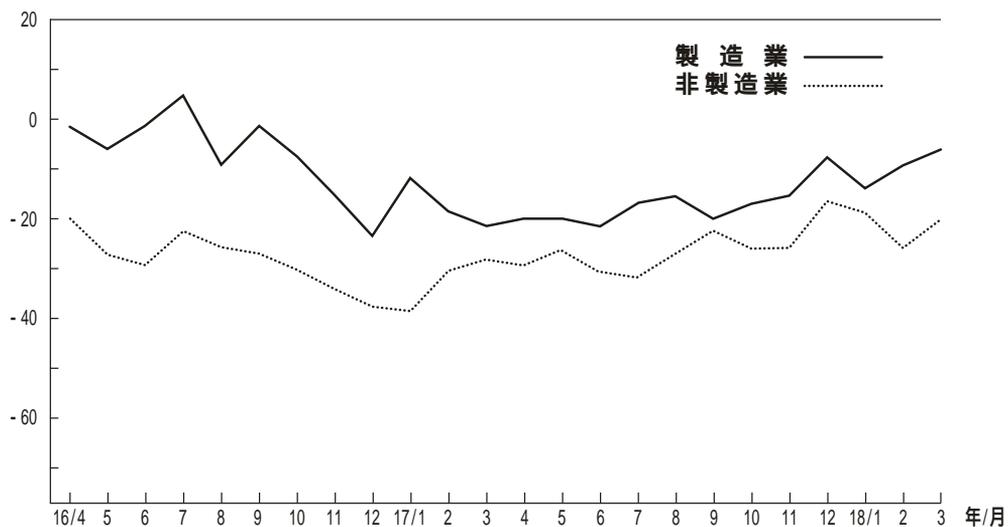
3月のレーダーチャート（全産業、前年同月比DI値）



(注)点線の9角形が「DI = 0」を示す。したがって、点線の内側は「減少」「低下」「悪化」、外側は「増加」「上昇」「好転」となる。

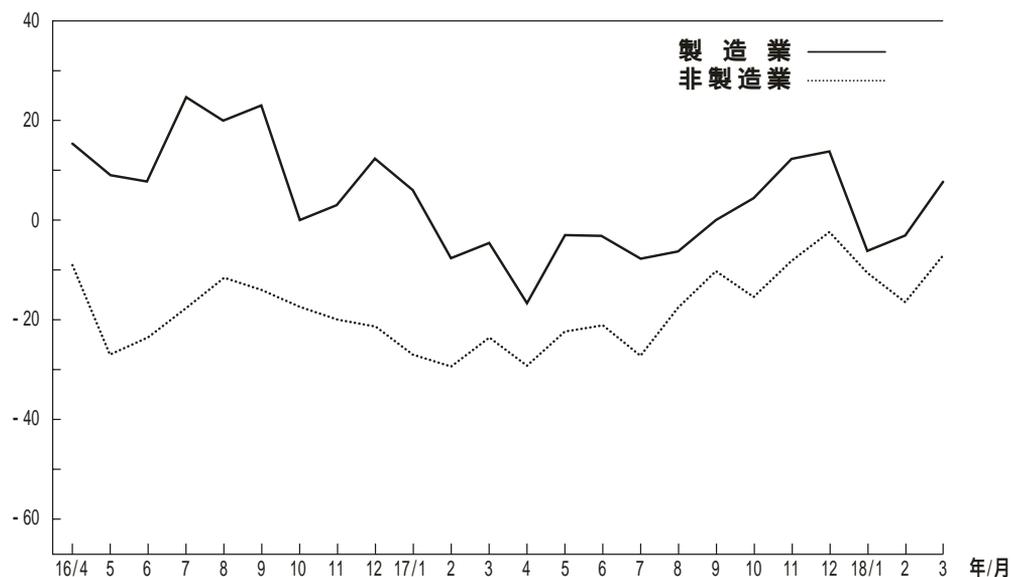
## 業界の景況DIの変化（H16.4～H18.3）

（前年同月比）



## 売上高DIの変化（H16.4～H18.3）

（前年同月比）



(注)DIとは、ディフュージョン・インデックスの略で、前年同月に比べ「増加」・「上昇」・「好転」したとする割合から「減少」・「低下」・「悪化」したとする割合を差引いた値である。